

## 西武新宿線の立体化の早期実現を都に要請

19日、杉並区長や下井草・井荻・上井草の各駅周辺地区まちづくり協議会の会長、関係区議など10名が都庁を訪ね、西武新宿線の連続立体交差事業の早期事業化を安藤副知事に要請しました。

西武新宿線の杉並区間にある10カ所の踏切のうち8カ所は、1時間あたりの遮断時間が40分以上となっています。この状態は、いわゆる「開かずの踏切」と呼ばれるもので、交通渋滞を招くとともに市街地の分断、さらには救急活動の妨げにもなっています。

平成20年、西武新宿線の「野方駅～井荻駅付近」「井荻駅～東伏見駅付近」が、東京都により連続立体交差事業の事業候補区間に位置付けられました。こうした背景を踏まえ、平成23年9月、各駅周辺のまちのあるべき姿を検討するため、地域住民が主体となった「下井草駅周辺地区まちづくり協議会」、「井荻駅周辺地区まちづくり協議会」、「上井草周辺地区まちづくり協議会」が発足しました。各まちづくり協議会では、暮らしやすく快適で安全なまちづくりを目指した「まちづくり構想」を取りまとめ、鉄道立体化の早期着手・早期実現をまちづくりの最重点事項として区に提案されました。

このような区民の声を受けて、地域の皆さまが描いたまちの将来像やまちづくりの中心となる西武新宿線立体化の早期実現に向けて、区では「西武新宿線沿線各駅周辺地区まちづくり方針」を策定し、このたび、区と沿線各まちづくり協議会が連携して都知事要請となりました。19日、午後4時、区長や各まちづくり協議会会長、関係区議などが東京都を訪れ、安藤副知事に要望書を手渡しました。区長は、「一刻も早く踏切が無くなり、便利で安全快適なまちとなるように取組みを進めていただきたい」とあいさつしました。



要請者：田中良区長、井口かづ子区議、浅井くにお区議、島田敏光区議、中村康弘区議  
矢島謙一会長（下井草）、井口哲次郎会長（井荻）、鈴木定雄会長（上井草）  
杉並区都市整備部長、鉄道立体担当副参事

【問い合わせ先】 都市整備部鉄道立体担当 TEL：3312-2111 内線3504